

● 移住交流支援センターだより ●

売買や賃貸を希望する
空き家情報を募集しています。

神山町に転入・Ｕターンを希望する方に、売買物件または賃貸物件として紹介できる空き家の情報を募集しています。

移住交流支援センターには、神山町内で住宅を探している方から年間約80件の問い合わせがあります。近年は町外からの転入希望者だけでなく、町内出身者のＵターンの相談も増えつつあります。物件のマッチングができた場合、センターによる荷物の片付けサポートのほか、センター提携の不動産会社による契約仲介サービスを受けられますので、安心してお取引することが出来ます。センターでの物件紹介を希望される方は、お気軽にお問い合わせください。

今月のインタビュー



阿野地ノ平在住
石田 祐史 徳島県出身
石田 孟 東京都出身



昨年10月に阿川に引っ越してきた石田さんをご紹介します。神山の茶葉を使った中国茶の生産・販売と茶道具などの骨董品を扱うお店「杉香庵」を開業される予定です。

〈移住前の暮らし〉

実家が鮎喰町だったので、幼少期を徳島で過ごしました。大人になって30年ほどは東京で暮らし、子育てもした後、縁あって中国に渡りました。香港で10年ほど、日本の茶器や酒器を販売する、古物

NPO法人
グリーンバレー
伊藤・林が
お届けします。



☎676-1177
IP: 2028

商の仕事をしていました。香港のお茶屋さんで中国茶を飲んだとき、同じお茶でも淹れる茶器によって味や香りが違うことに驚き、中国茶の奥深さに惚れ込みました。自分でも中国茶の生産をしてみたいと思うようになり、茶葉の産地まで行ってプーアル茶の生産体験に参加したこともあります。

〈移住のきっかけ〉



香港からの帰国を機に、徳島県でお茶の生産ができる場所を探し始めました。いろんな地域を見て回りましたが、神山はお茶の生産がもともと盛んであったこと、また市内の実家にも近いことから、神山に移住することに決めました。東京に住んでいた息子も中国茶づくりに関心があったので、10月から神山で一緒に暮らしています。

〈神山での暮らし〉

3月中の開業に向けて、中国茶を販売するための店舗を改装中です。道具や材料を保管する作業場のづくりから、店舗の土間打ちや壁の張り替えまで、自分たちでいちからやっています。茶畑の整地作業も並行して行っていて、阿川地区の方々からお茶の木を譲ってもらい、借りている家の畑に移植しました。茶葉をうまく収穫できるか、今から楽しみです。梅の生産にも興味があり、地元の方に剪定方法を教えてもらいながら、梅の木の手入れも始めました。



改装中の店舗

〈今後の抱負〉

中国茶の販売については、店舗だけでなくインターネットでも行えるよう、WEBサイトの構想を練っています。お店の営業に余裕ができたなら、中国の友人と一緒に企画している、四国のお茶産地を巡る体験ツアーにも取り組みたいと思います。日本の方に中国茶を知ってもらうだけでなく、中国の方にも日本のお茶文化を知ってもらえたら嬉しいです。